



利用開始式で、急速充電器を使って電気自動車に充電する布施市長（右）

# 道の駅に 県内初の設置

## 米山にEV用急速充電器

30分のフル充電で  
150キロの走行が可能

電気自動車（EV）用急速充電器が、米山町の道の駅米山に設置され、一般向け利用が始まりました。

EV用急速充電器は、日産自動車株式会社から寄贈を受け、市が道の駅米山の敷地内に設置したものです。県内には仙台市や気仙沼市など16カ所に設置（7月末）されていますが、道の駅への設置は初めてとなります。

8月5日に現地で行われた利用開始式には、布施孝尚市



調印式を終え握手を交わす布施市長（右）とエスティシー・高橋社長

# 自動車シート製造 （株）エスティシー（栗原）

## 9月から本格操業

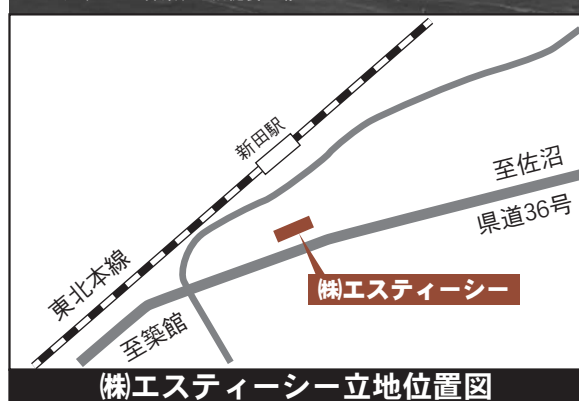
栗原市に本社がある自動車シートカバー部品製造の株式会社エスティシー（高橋康之代表取締役）が、登米市内に新工場を立地することが決まりました。9月から本格操業し、月約8000台分の部品製造を目指します。

新工場は、迫町新田地内にある旧縫製会社の空き工場を活用します。敷地面積は約3300平方メートル。木造平屋建てで、床面積は約700平方メートルです。投資額は約2300万円。土地と建物は賃借となります。

8月1日には、市役所で立地協定の締結式が行われ、同社の高橋社長と布施孝尚市長が協定書に調印しました。調印式であいさつした布施市長は「市内には縫製の技術を持った方がたくさんいる。



エスティシーが操業する旧縫製工場



（株）エスティシー立地位置図

## 迫町新田に新工場

そういった方々とエスティシー様をつなぎ、市内の雇用の確保と企業活動の支援を行っていきたい」と述べました。エスティシーの高橋社長は「復興需要の効果もあって、自動車シートの需要はまだまだ増えると思う。登米市の方々への知名度は低いかもしれ

ないが、これから雇用も含めてがんばりたい」と話しました。新工場の当初従業員は24人程度で、うち15人程度を契約社員として新たに採用する計画。同社は栗原市内に3工場を所有しており、立地する新工場は4カ所目となります。



設置された急速充電器を手にする道の駅米山の山崎準一郎駅長

長や日産自動車株式会社の担当者、道の駅の関係者ら約20人が出席。急速充電器の除幕式を行い、利用開始を祝いました。利用開始式であいさつした布施市長は「道の駅米山に急速充電器を設置できたこ

も当たり、県北地域における急速充電の拠点になると期待している」と述べました。

## 利用料は 1回500円

急速充電器の管理運営は道の駅米山（株式会社Y・Y）が行います。利用者は、道の駅が併設する産直施設に利用

料金を支払い利用。利用時間は午前9時から午後6時までです。1回500円の利用で約30分間充電できます。フル充電の状態では、約150キロメートルの走行が可能となります。設置された急速充電器は、国内自動車メーカーが販売している全ての電気自動車に充電可能です。